

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	リハビリテーションに関する領域	
科目名	生活支援のためのリハビリテーションの知識	
(1) 提供する研修について		
研修名	リーダー業務に従事し始めた介護福祉士を対象としたチームリーダー研修	
研修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの理念や知識を活用し、リハ職種と連携しつつ生活を支援することができる力を育成する 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの理念と ICF（国際生活機能分類）の考え方を理解し、生活リハの視点を持つことができる ・関節・骨格筋・神経などの構造に関する知識を活用して運動学的に分析・評価する視点を持つことができる ・病的な状態であっても、可能な動作を考え、支援することができる ・心理的な知識・技術（人間関係論・コミュニケーション手法等）を活用し、利用者の意欲を引き出す視点を持つことができる。 ・リハ職種との連携・協働を行うために必要な視点や知識を習得し、連携・協働ができる 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○リハビリテーションの理念 ○心身の評価とアプローチ ○各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係 ○運動学的視点を生活支援に活かす考え方 ○生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点 ○心理的な理解を生活支援に活かす考え方 ○リハ職種との連携・協働を行うために必要な視点と知識 	<p>○通信研修と集合研修を組み合わせて次の内容を学ぶ</p> <p>なお、通信研修は、テキスト等を活用した自己学習と、自己学習した内容をイーラーニングコンテンツで確認し、更に、その理解度をウェブ上で行う試験で確認するという形で行う</p> <p>○通信研修</p> <p>(1) 第1段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目1（リハビリテーションの理念）の自己学習（設定時間 150分）。 ・当該範囲のイーラーニングコンテンツを活用した通信学習（30分）。 ・筆記試験（15問）。 <p>(2) 第2段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目3（各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係）の自己学習（設定時間 155分）。 ・当該範囲のイーラーニングコンテンツを活用した通信学習（25分）。 ・筆記試験（13問）。 <p>以上（自己学習 305分。イーラーニングコンテンツを活用した通信学習 55分。計 360</p>

分)

(指定テキスト)

・栢森良二著「学生のためのリハビリテーション医学概論第2版」医歯薬出版株式会社、2015.1

○集合研修

(1)第1段階 講義・演習 (150分)

・項目2(心身の評価とアプローチ)、4(運動学的視点を生活支援に活かす考え方)、5(生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点)等に関する知識・技術について学習する。

・具体的には、脳卒中片麻痺の利用者の事例動画(利用者の状態像、動作、生活環境など)を見ながらグループワークを行うことで、リハビリテーションの視点を心身の評価や生活支援にどのように活かすかを実践的に学ぶ。

(2)第2段階 試験・解説 (55分)

・項目2、4~7の筆記試験・解説を行う

(3)第3段階 講義・演習・総合討議 (280分)

①基本的動作・姿勢の実践に関する講義・演習・総合討議

・脳卒中片麻痺の利用者の事例動画を見ながら、「活動性を上げていくにはどうしたら良いか」についてグループで討論を行う。

・検討の視点は、①必要な評価や障害特性(討論後に講師から提示)、②日常生活動作の困難さ、③ボディメカニクスを生かした介助方法の工夫、④介助方法の選択、補装具の使用、福祉用具の使用

・グループワーク時は、各グループ(6人)で検討を行った後、グループの半数(3人)が別のグループと入れ替わって新グループで議論結果を発表し合う(発表は30分程度)。

・運動学的視点についての実技試験を合わせて実施する。(講師及びファシリテーターが各グループで取りまとめた「介助方法の説明方法」や各受講者の議論への参画状況を評価する)

	<p>②基本的動作・姿勢の指導に関する講義・演習・総合討議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的動作・姿勢を例にして、ティーチングの技法（標準的な手順の説明、実践に対する根拠に基づく指摘、改善に向けた提案など）についてグループで討論を行う。 ・職場実践計画②（基本的動作・姿勢の実践と指導）を作成する。（個人ワーク） <p>(4)第4段階 総合討議（145分）</p> <p>○基本的動作・姿勢の実践と指導の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「振り返りシート②（基本的動作・姿勢の実践と指導）」に基づいてグループで成果や課題を共有し、今後の実践及び指導の改善点を話し合う。 ・グループでの討議や全体共有を踏まえ、「行動プラン②（基本的動作・姿勢の実践と指導）」を作成する。（個人ワーク） <p>以上（集合研修 630分）</p> <p>※ 通信研修 360時間。集合研修 630時間で、計 990時間（規程 900時間）</p>
<p>研修方法</p>	<p>■通学課程（集合研修） ■通信課程（通信研修）</p>
	<p>集合研修による演習と通信課題を組み合わせる。</p>
<p>研修時間</p>	<p>20時間（演習：12時間以上、通信課題：8時間）</p>
<p>修了要件</p>	<p>○修了評価として行う筆記試験（50問程度）において、100点換算して、A～C評価（100点満点中60点以上）であること。D評価（59点以下）の場合は、再試験を行い、A～C評価とならなければならない。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。</p> <p>○修了評価として行う実技試験において、A～C評価であること。D評価の場合は、再試験を行い、A～C評価とならなければならない。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。</p>
<p>講師要件（講師の選定基準）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること ・修士課程を修了していることが望ましい ・日常業務で介護福祉士と共に働いた経験のあるリハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等）、または、リハビリテーション科専門医（大学講師以上）が望ましい
<p>(2)受講者について</p>	

<p>受講対象 (受講要件)</p>	<p>以下の条件をすべて満たす者。 ①介護福祉士（介護福祉士ファーストステップ研修を修了した人（又は同等の研修履歴がある人）であることが望ましい） ②介護職の小チーム（ユニット等、5～10名の介護職によるサービス提供チーム）のリーダー（ユニットリーダー等）や、初任者等の指導係に就いている人（リーダーとしての実務経験を概ね1～3年程度有することが望ましい）、サービス提供責任者、サービス管理責任者 ③介護老人福祉施設、介護老人保健施設、認知症グループホーム、訪問（居宅）介護事業所、障害者支援施設（旧身体障害者療護施設）等の従事者。</p>
<p>修了評価（習得度、研修成果）</p>	<p>筆記試験（50問程度）については、100点換算で、100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価、59点以下をD評価とする。A～C評価（100点満点中60点以上）とならなければならない。 実技試験については、「A・B・C・D」の4段階評価とし、A～C評価とならなければならない。 全ての評価で合格基準となった場合に修了とする。</p>
<p>(3) 研修の環境条件</p>	
<p>定員（講師の配置基準）</p>	<p>20名（講師2名、ファシリテーターは受講者5・6名に1名を配置する）</p>
<p>開催場所（都道府県）</p>	<p>集合研修は埼玉県において実施する（予定）</p>

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	平成31年1月19日・20日、2月17日
開催場所 (会場)	東洋大学朝霞キャンパス
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	演習時担当講師：川手信行氏、本名 靖氏、中村大介氏
	【略歴】 川手信行氏 昭和大学医学部リハビリテーション医学講座 教授・医学博士 日本リハビリテーション医学会指導医/専門医、義肢装具適合判定医、健康スポーツ医、心臓リハビリテーション指導士 平成23年～24年「認定介護福祉士(仮称)の在り方に関する調査研究事業」作業部会委員(領域幹事) 平成29年度「介護福祉士の資格取得後のキャリアアップ及び専門性の高度化に関する調査研究事業」医療・リハ部会委員
	【略歴】 本名 靖氏 東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科 教授・教育学修士 専門分野：介護技術、介護関係諸制度の構築 著書・論文等：障害福祉サービスにおける質の確保とキャリア形成に関する研究[平成28年度厚生科学研究補助金事業障害者対策総合事業]、生活支援技術の構造 [季刊 介護福祉学 No101] 平成24年～25年「認定介護福祉士(仮称)の在り方に関する調査研究事業」作業部会委員(領域幹事) 認定介護福祉士モデル研修講師 認定介護福祉士養成研修講師(長野県介護福祉士会) 平成29年度「介護福祉士の資格取得後のキャリアアップ及び専門性の高度化に関する調査研究事業」推進委員会委員、教材開発部会委員、生活支援・介護過程部会委員
	【略歴】 中村大介氏 昭和大学保健医療学部教授、博士(工学)、理学療法士 専門分野 リハビリテーション科学、建築計画

	<p>日本理学療法士協会・日本建築学会所属 平成 29 年度「介護福祉士の資格取得後のキャリアアップ及び専門性の高度化に関する調査研究事業」医療・リハ部会委員</p> <p>ファシリテーターとして全国老人保健施設協会傘下の介護老人保健施設に所属するセラピストを配置する。</p>
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	生涯研修制度委員会
研修の企画運営に関する諸 規程	定款
研修管理責任者職名	生涯研修制度委員会委員長
研修管理責任者氏名	藤野裕子
機構問合先部署	公益社団法人日本介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	松下能万
機構問合先電話番号/FAX	03-3507-0784/03-3507-8810
機構問合先 e-mail アドレス	webmaster@jaccw.or.jp
受講問合先部署	公益社団法人日本介護福祉士会事務局
受講問合先担当者氏名	松下能万
受講問合先電話番号/FAX	03-3507-0784/03-3507-8810
受講問合先 e-mail アドレス	webmaster@jaccw.or.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への単位付与部門	公益社団法人日本介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○外付けディスクにバックアップデータを保管する。 ○データ保存期間は 10 年間とし、その後は外付けディスクにてデータを保管する。 ○個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	全課程を修了した者には、日本介護福祉士会会長名による修了証書を発行する。
管理責任者氏名	石本淳也
管理担当者氏名	松下能万